

—岡山市—

# 県庁通りにおける道路空間の再構築と官民連携のまちづくり

## 1. はじめに

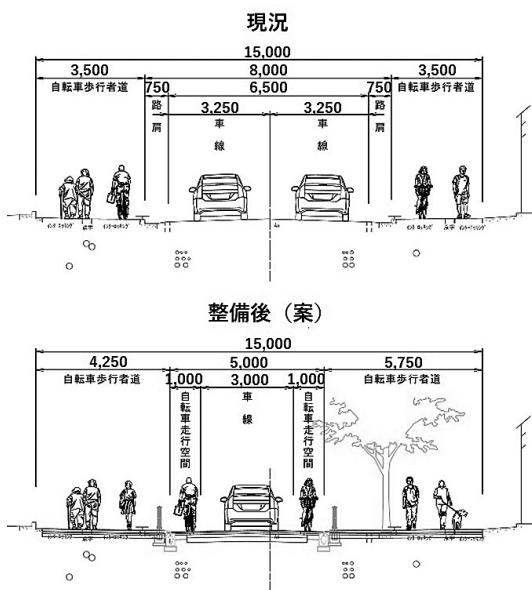
人口減少による交通需要の減少、少子高齢化による交通サービスに対するニーズの変化、厳しい財政、魅力・賑わいの喪失など、道路空間を取り巻く環境が変化している。従来の交通機能だけではなく、人の滞留や賑わい創出に寄与する道路空間の在り方が求められているなか、本市においては中心市街地に位置し、回遊の軸である「県庁通り」において、車中心から人優先の空間への再構築に取り組んでいる。



整備後のイメージパース

## 2. 道路空間の再構築

「県庁通り」は現在、全幅員15mの2車線一方通行の道路であるが、車道を1車線化し併せて歩道を拡幅する。また、車道の両側に自転車通行帯を設けることで歩行者と自転車を分離するとともに、夜は暗いと言われた歩道へは連続照明を設置し、安全・快適に歩行できる人に優しい空間を創出する。さらに、街路樹は樹形の良く緑陰のできるものにすべて植え替えるとともに、拡幅した歩道を活用し、ベンチの設置やオープンカフェ等を実施し、居心地の良い、憩いの空間を創出する。



再構築前後の標準断面

## 3. 官民連携によるまちづくり

本事業は、沿道事業者や住民等“まちのプレイヤー”が主役となった、まちづくりを進めていくため、ソフト事業にも力をいれている。公開会議やまちづくりの専門家による講演会、意見交換やまちづくりの勉強会など官民が一緒になり、取り組んでいる。

得られた意見等はハード整備にも反映し、また「賑わい創出のため、“イベント”ではなく“日常的に”歩道を活用したい」といった意見から、歩道をオープンカフェなどで活用する実験「1M KENCHO-DORI PROJECT」も行っている。

今後は、ハード整備とともに、無理の無い持続的な賑わい創出に向け、まちのプレイヤーと連携し、歩道を活用する仕組みの構築や沿道を含めた県庁通り周辺一帯のまちづくりを推進していく。



歩道の活用実験（1M KENCHO-DORI PROJECT）

（岡山市 都市整備局 庭園都市推進課 舌崎 博勝）